

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 足立 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

I. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）					
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等					
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等					

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問調査

児童質問調査	
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	

※本校の6年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

- (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全般的な傾向や特徴など	知識及び技能の「言葉の特徴や使い方に関する事項」、思考・判断・表現力の「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら話の内容を捉える」区分で全国平均を上回っている。「話すこと・聞くこと」「書くこと」の区分で課題がある。
	よくできた問題	目的に応じて、文章と図表などを結びつけて必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題。
	努力が必要な問題	目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように簡単に書いたり詳しく書いたりできるかどうかをみる問題。
算数	全般的な傾向や特徴など	知識及び技能の「測定」、思考・判断・表現力の「変化と関係」の区分では、全国平均を上回っている。「データの活用」「図形」の区分で課題がある。
	よくできた問題	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量の求め方を式や言葉を用いて記述する問題。
	努力が必要な問題	目的に応じて適切なグラフを選択して、出荷量の増減を判断したりその理由を記述する問題。
理科	全般的な傾向や特徴など	思考・判断・表現力の「地球」柱とする領域の区分では、全国平均を上回っている。「エネルギー」「生命」の区分で課題がある。
	よくできた問題	水の蒸発について温度によって水の状態が変化するという知識を基に、適切に説明しているものを選ぶ問題。
	努力が必要な問題	ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる問題。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析		
○ICT機器に慣れ親しんでいる子どもが多く、100%の子どもが「タブレットは、友達と情報を共有したり比べたりしやすくなる」と答える。		
○「先生は、授業やテストで下記選んだところについて、分からまるまで教えてくれている」や「算数の授業の内容がよく分かる」と答える子どもが8割を占めています。		
○「人が困っているときは、進んでも助けていますから」と答えた子どもが100%を占めており、本校で重点化して取り組んでいる人権教育や異学年交流による「たてわり活動」での経験や日常的に積み重ねできている「友達の良さを見つめたい」ところ見つけの取組の成果と考える。		
○「学校の授業時間以外の一日あたりの学習時間」の平均は80分間と全国平均を若干上回っている。低学年の頃から毎日、宿題に毎日的に取り組む流れができるようになってきていること、量ではなく学年の工夫を随分と見えてきている。		
○「困りごとや不安があるときに、先生や学生にいた大人につけても相談できる」と答えた子どもが全国平均を若干上回っている。また、人間関係が固定化されやすいことが原因と考えられる。今後も、担任だけでなく、加配教員や保健教師、専科教員をはじめ、全職員が一丸となって、一人一人の子どもの表情や行動の変化に細かく目を向け、どの子どもとも「つながること」と感じてもらえるような雰囲気をつくりていきたい。		

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組

○確かな学力と集中して学ぶ姿を育てるために、今後も継続して毎朝15分間の計算力や言語力をつける補充学習を行っていく。また、継続的な基礎学力の定着につなげていくために、目標をもって努力する態度や達成感を味わえるような計算コンクールや自主学習コンクールを積極的に取り入れていく。

- ② 家庭生活習慣等に関する取組

○毎朝、安心して学校に送り届してくれる保護者の方に感謝の気持ちを伝えるとともに、朝、登校が遅れてしまう児童には、規則正しい生活習慣の大切さを伝えるとともに、どんな時でも保護者の声に丁寧に耳を傾けられるような相談しやすい体制づくりを進めいく。
--